

# 手足の不自由な子どもたち

# はげみ

令和4年度/No.405

# 8/9

August—September

## 特集 GIGAスクール時代の肢体不自由のある子どものICT活用



第40回(令和3年度)肢体不自由児・者の美術展入賞作品「輝く花火」

小島 望



# はげみ

令和4年度/No.405

8/9

August—September

## 特集 GIGAスクール時代の 肢体不自由のある子どものICT活用

### C o n t e n t s

広場	GIGAスクール時代の肢体不自由のある子どもへのICT活用	金森 克浩	2
Sec.1	GIGA端末等の有効活用に向けて	大井 雅博	4
Sec.2	視線入力再入門	伊藤 史人	14
Sec.3	タブレット端末再入門	高松 崇	24
Sec.4	我が家のICT活用法	古川 綾子	33
		畑中 優子	35
		古田 裕子	38
Sec.5	作業療法士の私がICT活用支援をするときに大切にしている 3つのポイント	引地 晶久	40
Sec.6	STの視点からのICT活用	知念 洋美	46
Sec.7	PT・OTと一緒に考えたICT支援の活用と注意点	川村 龍子・小林 大作	51
	今号の表紙	小島 望	58

## GIGAスクール時代の 肢体不自由のある子どもへのICT活用

帝京大学 教育学部 教授

金森 克浩

### ●GIGAスクールとは？

近年、日本の学校ではたくさんさんのICT機器が配備されました。これは文部科学省が令和元年12月に出した『安心と成長の未来を拓く総合経済対策』に示された「学校における高速大容量のネットワーク環境（校内LAN）の整備を推進するとともに、特に、義務教育段階において、令和5年度までに、全学年の児童生徒一人ひとりがそれぞれ端末を持ち、十分に活用できる環境の実現を目指すこととし、事業を実施する地方公共団体に対し、国として継続的に財源を確保し、必要な支援を講ずることとする。あわせて、教育人材や教育内容といったソフト面でも対応を行う。」が発せとされています。

この通知では「令和5年度までに」となっています。しかし、これが出た直後に世界中を席卷したコロナ禍の影響から、全ての子どもが学校への登校に制限がされることとなり、オンライン学習など遠隔教育の必要性も相まって、

令和2年度までにほぼ全ての学校にGIGAスクール端末等が配備されることになりました。

文部科学省が示しているGIGAスクール構想のポイントは「1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する」「これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す」とあります（「リーフレット GIGAスクール構想の実現へ」より引用）。メインとしてかかげる文章に「特別な支援を必要とする子供を含め」とあることは注目するべきことでしょう。新しい時代を開くためには、これまでの教育をpushさえつつも、同じことをやっているのは実現されない創造的な学びが求められていると思います。

## ● 肢体不自由のある子どものICT活用

さて、そうした中で肢体不自由のある子どもにとって、GIGAスクール構想で配備された機器はどのような役割を果たすべきでしょうか？ ICT機器の利用を考えるとときに、よく学校現場の皆さんにお話しするのは「それは障害や学習の困難を補うための支援として使われていますか？」、「学習内容の理解を促進するための支援として使われていますか？」、「ICT機器の特徴が生かされるようにしていますか？」ということですね。どうしても、機器の魅力に目が行ってしまっているので、まずは利用ありきではじまりません。もちろん、便利なものは積極的に使って良い、解決の方法が目の前にあるのなら、まずはそこから入ってもらい、より深い学びに進んでいけば良いのではないかと私は考えます。

また、肢体不自由のある子どもたちはこれまで使われてきた教材がそのまま利用できないことも多いです。「紙の教科書」、「ノート」、「鉛筆」、「定規」、「コンパス」など、その使い方を知ることができても制限から同じように扱えません。訓練で多少は上手になっても何倍も時間がかかる子どもが多くなります。だとすれば、学びを支援するためのICT機器は積極的に利用してもらいたいと思います。

そこに、GIGAスクール構想で配備されたタブレットPCなどがきたのであれば、ぜひ子どもたちの新しい教科書やノート・文房具になってほしいと考えます。しかし、多くの肢体不自由のある子どもの場合、タブレットPCをそのまま使うことは難しいかもしれません。専用の入力装

置や専用のソフト、タブレットに標準的に備わっているアクセシビリティ機能などが必要です。そこで、本書ではそういうものがどのように利用できるかを解説してあります。ぜひ、ここで示されたものを参考にしながら有効に活用してもらえればと思います。

## ● これからの教育の行方

さて、最初に紹介したように日本の教育シーンは望んできた「GIGAスクール構想」と望まないで来た「コロナ禍」により大きく進むことになりました。学校現場、特に教員の皆さんは混乱しているのかもしれませんが、しかし、新しいものを生み出すためにはいったんそれまでやってきたことをリセットし、作り上げていくことを楽しんでもらいたいと思います。

そのためには何が大切なのでしょう？

私は、教育を作る役割を大人から子どもに渡してはと思うのです。どうしてもこれまでの学校のシステムは大人が作って子どもに伝えるのが正しいものだと考えていました。しかしそうでしょうか？ 新しい時代を作るのは子どもたちです。その子どもが自由な発想をもって、新しい時代を作ればこの閉塞感のある社会を変えていけるのではと私は思っています。

そのためには、子どもが自由に使えるツールとしてICT機器を渡していく。もちろん上手いかなんかや危ないこともあるかもしれませんが、しかし、大人だってそうだったはずですよ。自由に使いこなせるものから自由な発想は生まれる。そう私は考えます。